

公益財団法人電気通信普及財団

「電気通信普及及財団賞(第39回)」の受賞者および2023年度研究調査助成など

公益財団法人電気通信普及財団(秋本芳徳理事長)は、2023年度における「電気通信普及及財団賞(第39回)」を受賞した著作論文を決定するとともに、2023年度研究調査助成及び2023年11月期シンポジウム・セミナー等開催援助等の助成援助案件を決定した。

電気通信普及及財団賞については、テレコム人文・社会科学賞、テレコムシステム技術賞、テレコム国際研究賞と各学生賞に36件の著作・論文の授賞を決定した。

2023年度研究調査助成として新規78件(1億3576万円)、過年度からの継続分として37件(4574万円)の計1億8150万円、2023年11月期シンポジウム・セミナー等開催援助として10件・980万円を決定した。詳細は次の通り。

【第39回電気通信普及財団賞】①テレコム人文・社会科学賞・入賞3件、奨励賞1件②テレコムシステム技術賞・入賞1件、奨励賞1件③テレコム国際研究賞・入賞1件、奨励賞1件④テレコム学生賞・入賞1件、奨励賞1件

【2023年度研究調査助成】①人文・社会科学分野・17件2700万円②技術分野・40件6700万円③両分野に跨る分野・21件4200万円④過年度採択分・37件4600万円▽合計1億8150万円

【2023年11月期シンポジウム・セミナー等開催援助】10件1000万円

受賞者の具体的内容は次の通り。

◆受賞(賞金100万円) 銀河筑波大学人間系准教授

◆受賞(賞金50万円) 尾崎司郎NTTコムシステム研究センター主任研究員

66GHz Bands) 教、原隆浩(大阪大学) 院情報科学研究科教授

「政治の話はモテテラ」 奨励賞(賞金30万円) シー・規範的効果の実証

「地上波テレビ放送局のムシシステム技術賞」 2023年3月、横山 智哉(金沢大学) 人間社会科学研究法系准教授

「法的保護」(書籍) 2023年7月、齊藤史郎(慶應義塾大学) 総合政策学部准教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

「『メディア変革期の政治』」(書籍) 2023年3月、佐々木 隆一(東京経済大学) コミュニケーション学部教授

海洋デジタルツインの実現に向けてAIを活用して海中生物や構造物の3次元形状データを取得する技術を開発

富士通

富士通は、海洋の状態をデジタル空間に高精度に再現し、海洋を構成する環境の変化や海洋を活用した施策の効果などのシミュレーションによる予測を可能にする海洋デジタルツインの研究開発の一環で、AIを活用し、自律型無人潜水機(AUV)を用いた海中生物や構造物の解像度が高い3次元形状データを取得する技術を開発した。同技術は、AIを活用して画像を鮮明化することで、濁った海中でも対象物を識別し形状を計測できる画像鮮明化AI技術と、波や潮流の中でも自律型無人潜水機からの安定計測を可能にするリアルタイム計測技術から成る。同技術により、カホン(ネット)トラベルや生物多様性の保全に向けた海洋調査に際して、対象となる生物や構造物の状況を可視化し、体積などを推定することが可能になった。これらの技術に活用して、国研研究開発海上・港湾・航空技術研究所海上・沖縄安全研究所と、沖縄県石垣島近海において、実証実験を行い、サンゴ礁の精密な3次元形状データを取得することに成功し、技術の有効性を確認した。富士通は今後、今回確

立した技術の測定対象を、フルカラーの吸収量が多い海藻などに拡大することを目指し、2026年度中に藻場に関する海洋デジタルツインの確立を目指す。これにより、企業・自治体など、富山県が国際体操連盟と共同開発した体操の判定を支援する「Judging Support System」で培った、短周期のレーザー発光と高速画像による高速サンプリング技術を採用した。さらに、3つのレーザーを推進する。富士通は持続可能な成長に向けたマテリアリティの1つとして地球環境問題の解決を掲げ、気候変動(カーボンニュートラル)や自然共生(生物多様性の保全)に取り組みている。海洋は、その面積が地球の表面積の約7割に相当し、気候変動に大きな影響を及ぼすことから、富士通ではこの海洋におけるカーボンニュートラルや生物多様性の保全などの施策立案を支援するために、海洋に関する海洋デジタルツインの研究開発を行っている。カホン(ネット)トラベルや生物多様性の保全に向けた海洋調査に際して、対象となる生物や構造物の状況を可視化し、体積などを推定することが可能になった。これらの技術に活用して、国研研究開発海上・港湾・航空技術研究所海上・沖縄安全研究所と、沖縄県石垣島近海において、実証実験を行い、サンゴ礁の精密な3次元形状データを取得することに成功し、技術の有効性を確認した。富士通は今後、今回確